

東地区統合小学校の建設候補地の選定について

市では、東地区統合小学校の建設候補地として、「あずま生涯学習センター付近敷地」を選定したいと考えております。その理由等は、以下のとおりです。

1 経緯

市では平成22年3月に「学校再編整備実施計画」を策定し、市内小学校の再編を実施してきました。

計画における東地区小学校の適正配置方針は、小学校5校の全部をもって統合し、新しい場所に学校を設置する新設統合でしたが、これまで東地区では、各学校に編成された複式学級の解消を最優先に段階的な統廃合を実施してきました。

しかしながら、さらなる児童数の減少により、令和7年度にはあずま北小学校において複式学級の編成が見込まれているほか、既存の3小学校とも建物の老朽化が著しいことから、東地区における小学校の今後の在り方について説明会やアンケートなどを実施し、広く意見を募集し検討を進めてきました。

アンケート結果や説明会での意見及び既存小学校の状況などを総合的に判断し、「東中学校敷地内」「あずま生涯学習センター付近敷地」「あずま北小学校敷地」の3か所を候補地として、東地区の小学校を統合することとしました。また、建設候補地が3か所に絞り込まれたことから、令和4年4月には、地区の区長及び各小学校、幼稚園等の保護者を対象とした説明会を実施し、各候補地の状況等について説明するとともに、参加者との意見交換を行いました。

こうした過程を経て、建設候補地選定に関する議論が深まってきたことから、候補地を3か所から1か所に絞り込むため、説明会等で出された意見や建設コンサルタントなどの専門的な知見を基に関係機関との協議を重ね、候補地ごとに評価を行い、統合小学校の建設候補地を選定しました。

2 3候補地の基本条件

- (1) 今後の児童数の見込から、令和8年度時点ですべての学年で2クラスとなるため、必要な普通教室数は12教室とします。
- (2) 「①東中学校敷地内」については、中学校の空き教室等を最大限に活用し、必要最低限の増築とし、併せて、既存校舎(中学校校舎)の大規模改修工事を実施します。
「②あずま生涯学習センター付近敷地」「③あずま北小学校敷地」については、新築とします。
- (3) 立地条件等の基本的な要件については「3 3か所の建設候補地の特徴」のとおりです。

3 3か所の建設候補地の特徴

		①東中学校敷地内	②あずま生涯学習センター付近敷地	③あずま北小学校敷地
現況				
基本情報	所在地	稲敷市八千石 77	稲敷市佐原組新田 1596	稲敷市伊佐部 1673
	用途地域	○ 非線引き区域	○ 非線引き区域	○ 非線引き区域
	建ぺい率	60%	60%	60%
	容積率	200%	200%	200%
地理的中心性		○ 概ね地区の中心	○ 概ね地区の中心	○ 概ね地区の中心
計画自由度	敷地面積	○ 約6万㎡（中学校含む）	◎ 約3.2万㎡	△ 約2万㎡
	敷地形状	◎ 整形で高低差が小さい	◎ 整形で高低差が小さい	△ 不整形、かつ高低差あり
	既存施設	△ 敷地内に中学校があるため、配置等に制約を受ける	○ 既存施設がないため、配置の自由度が高い	△ 敷地が狭く不整形のため、配置等に制約を受ける
周辺施設との連携		◎ 東中学との小中連携や義務教育学校の検討ができる	○ 生涯学習センターや周辺運動施設と連携が期待できる	△ 連携を期待できる施設が隣接していない
防災	洪水ハザードマップ	△ 浸水想定：0.5～3m →階構成等に配慮が必要	△ 浸水想定：0.5～3m →階構成等に配慮が必要	◎ 浸水想定：なし
	ゆれやすさマップ	○ 震度6強	○ 震度6強	○ 震度6強
工事による児童・生徒への影響		△ 工事期間中に中学校への騒音・振動等の影響が発生	◎ 既存各校の運営に影響なし	△ 工事期間中に小学校への騒音・振動等の影響が発生
		○ 敷地範囲により校庭が狭くなる等の可能性あり	◎ 既存各校の運営に影響なし	△ 工事期間中の校庭等が確保できない

		①東中学校敷地内		②あずま生涯学習センター 付近敷地		③あずま北小学校敷地	
近隣 配慮	圧迫感等	○	周囲に住宅等がないため、影響なし	○	周囲に住宅等がないため、影響なし	△	既存小学校より規模が大きくなるため、圧迫感等に配慮が必要
	日影等	△	周辺農地への日影・光害等に配慮が必要	△	周辺農地への日影・光害等に配慮が必要	○	北側に農地や住宅がないため、影響が少ない
	スクールバス等	○	道路幅員が大きく、大きな問題はない	○	道路幅員が大きく、大きな問題はない	△	スクールバスの通行による周辺環境への影響あり
	工事車両	○	道路幅員が大きく、大きな問題はない	○	道路幅員が大きく、大きな問題はない	△	道路が狭く、工事による影響が発生する可能性が高い
建設 工期	設計期間	○	開発許可が不用と想定	△	開発許可が必要と想定	○	開発許可が不用と想定
	工事手順	○	I期工事で建設可能	○	I期工事で建設可能	△	仮設校舎建設や既存校舎解体など、数段階の工事
	工事ヤード	△	中学校の活動スペース確保のため、工事ヤードが限定される可能性がある	○	十分な工事ヤードが確保可能	△	敷地が狭く、十分な工事ヤードが取れない可能性がある
	国道からの車両動線	○	比較的大きな幅員の道路でアクセス可能（約850m）	○	比較的大きな幅員の道路でアクセス可能（約1,800m）	△	狭く、屈曲した道路を通るため、車両のサイズや台数に制約を受ける（約1,000m）
工事 費	校舎建設	△	長寿命化工事を含む一般的な校舎建設	○	一般的な校舎建設	△	斜面地のため、土圧による構造コスト上昇の可能性あり
	造成	○	大きな高低差がなく、造成不要	○	造成が必要になるが、道路幅員等の問題なし	△	造成や北側擁壁の改修が必要な可能性が高い

4 統合小学校建設地選定の基本的な考え方

統合小学校の建設地選定に当たっては、東地区の子供たちの理想的な教育環境の整備、通学時間の短縮や安全性の確保、災害に対する安全性の確保及び、市有地の有効活用などの観点から、建設地候補のエリアを抽出し、候補地のリストアップを行い、比較検討の上、建設地を選定するものとなりました。

また、建設地選定に至るプロセスは、次のとおり実施しました。

(1) 候補地決定に至るプロセス

〈第1段階〉前提条件の設定

- ①統合時期
- ②規模
- ③用地要件

〈第2段階〉建設候補地の選定

- ①距離的中心地
- ②市有地の有効活用（用地取得が最小限）

〈第3段階〉建設地の選定

1) 土地の状況

- ①法規制（都市計画法、農地法、文化財等）
- ②統合する3校からの距離（人口が多いエリアからの距離等）
- ③敷地の広さ・形状
- ④安全性（洪水、土砂災害等）
- ⑤周辺の道路・歩道（通学時の交通安全確保等）
- ⑥周辺のインフラ等整備状況
- ⑦幹線道路からの距離
- ⑧周辺施設との連携等

2) 実現性

- ①建設工事
- ②建設計画の柔軟性、整備手法
- ③土地の確保
- ④基盤整備（造成、周辺整備）
- ⑤周辺のインフラ整備
- ⑥建設開始までのスケジュール

3) 保護者等の意見

(2) 3か所の建設候補地の評価

「3か所の建設候補地の特徴」のとおり3か所の候補地は、それぞれ優れた点を持っておりますが、話し合いだけでは候補地を1か所に絞り込むのは困難であるため、候補地の土地の状況や実現性等について評価を実施することになりました。

評価の方法は、3か所の候補地を20項目毎にそれぞれ◎、○、△で評価し、◎を3点、○を2点、△を1点と点数化しました。

また、保護者の意見を評価に反映するため、令和3年7月にアンケートを実施し、その後開催した説明会等でも広く意見を頂いてまいりました。その中ででた候補地に対する意見なども点数化しました。

その結果は、下表のとおりとなっております。

	①東中学校敷地内	②あずま生涯学習センター付近敷地	③あずま北小学校敷地
1. 用途地域	2	2	2
2. 地理的中心性	2	2	2
3. 敷地面積	2	3	1
4. 敷地形状	3	3	1
5. 既存施設	1	2	1
6. 周辺施設との連携	3	2	1
7. 洪水ハザードマップ	1	1	3
8. ゆれやすさマップ	2	2	2
9. 工事の影響 (内部)	1	3	1
10. 工事の影響 (外部)	2	3	1
11. 近隣への圧迫感等	2	2	1
12. 日影等	1	1	2
13. スクールバス等	2	2	1
14. 工事車両	2	2	1
15. 設計期間	2	1	2
16. 工事手順	2	2	1
17. 工事ヤード	1	2	1
18. 国道からの車両動線	2	2	1
19. 校舎建設	1	2	1
20. 造成	2	2	1
保護者意見等 10点	2	7	1
合計	38/70	48/70	28/70

5 比較検討の要旨

(1) 児童生徒への影響

「①東中学校敷地内」については、既存中学校校舎の長寿命化工事や不足教室を増設するため、それらの工事や既設校舎から仮設校舎への引っ越しなどにより中学生に与える影響が大きくなることを見込まれます。また、通学等に関しては、周辺道路の幅員等は十分ですが、保護者用の駐車場に不足が生じることが見込まれています。

「②あずま生涯学習センター付近敷地」については、既存の小中学校とは別の敷地での建設工事となるため、児童生徒への影響はほぼ無いものと考えております。また、通学等に関しましても、付近道路の幅員等は十分であり、向かいの生涯学習センターの駐車場相互利用が可能など、保護者の駐車スペースも確保できると見込まれています。

「③あずま北小学校敷地」については、統合小学校建設時には校舎が使えないことから、先行してあずま西小学校との統合、もしくは仮設校舎への引っ越しなど、児童に与える精神的・身体的負担も少なくないと考えております。また、通学等に関しては周辺道路の幅員不足から、同一時間帯にスクールバスが集中せざるを得ないことにより、地域住民に与える交通上の影響も大きいと考えています。

(2) 水害等への対応

「①東中学校敷地内」については、既存施設を利用するため敷地の嵩上げは難しいと考えます。

「②あずま生涯学習センター付近敷地」については、さら地の状態からの新築になるため、盛土等による嵩上げが可能となります。また、敷地には既に一定量の土砂が存在しており、敷地の嵩上げに使用できる見込みであります。

「③あずま北小学校敷地」については、3候補地唯一の高台に立地しているため、浸水対策を必要としません。但し、敷地が狭いため、北側に面した崖に擁壁を整備する必要があると考えています。

6 選定理由

「②あずま生涯学習センター付近敷地」を選定した大きな理由としては、広い敷地と校舎設計の自由度の高さ、そして浸水対策が実施できることから、最も重要である「児童のより良い教育環境の整備が可能となる」ということです。また、建設に際し避けるべき内容として考えている「児童生徒に与える影響が最も少ない」ということが挙げられます。

具体的なメリットとして

- 児童が広いスペースで学習できる環境であること
- 浸水想定エリア内ではあるが浸水対策が可能であること
- スクールバスや工事車両など大型の車両が往来しても危険性が少ない周辺環境であること
- 駐車場が広くとれるなど、児童の送迎等に利便性が高いこと
- 騒音の心配が少なく工事による児童・生徒への影響が少ないこと
- 近くに広い駐車場等を備えた公共施設があるなど、市民が集まりやすい環境であること
- 小中学校や生涯学習施設が地区の中心に集まり、東地区の教育ランドマークとなり得ることなどが挙げられ、他の2候補地と比較して、好条件の場所であると考えています。